

# 世界の土壌について

①

---

気候の影響を受けて生成し、気候帯に密接に関係している土壌。

②

---

気候帯に関係なく、地形・地下水・岩石などの局地的な特性に支配されて生じた土壌。

# 成帯土壌について

※地図帳にある気候分布と共に確認すると学習効率が上がると思います。

## ・熱帯地域の土壌

---

特徴:赤色土、酸性を示す、痩せた土壌で農業には向かない。

## ・乾燥帯～温帯地域の土壌

(ウクライナ～西シベリアに分布)

---

(アメリカ合衆国)

---

(アルゼンチン)

→特徴:肥沃な土壌で、小麦等が生産されている。

## ・冷帯(亜寒帯)の土壌

---

特徴:灰白色、強酸性を示す、痩せた土壌で農業には向かない。

ツンドラ土(ツンドラ気候に分布)

## 間帯土壌について

①

---

場所:地中海沿岸

利用:果樹栽培

②

---

場所:ブラジル高原

利用:コーヒー栽培

③

---

場所:デカン高原(インド半島)

利用:綿花栽培

④

---

場所:ロッキー山脈や黄土高原等

利用:コウリヤンなど

# 確認問題

世界の土壌について最も妥当なものはどれか。

- 1.気候や植生などの影響を受けて生成された土壌を成帯土壌、局部的な地形や母岩の影響を受けて生成し分布が限られる土壌を間帯土壌という。成帯土壌の例としてはレス(黄土)やツンドラ土、間帯土壌の例としてはプレーリー土やレグール土がある。
- 2.高温で湿潤な地域においては、鉄とアルミニウムの酸化物を含む赤色のラトソルと呼ばれる土壌がみられ、低温で湿潤な地域においては、石英を多く含む灰白色のポトゾルと呼ばれる土壌がみられるが、これらはいずれも酸性が強く、肥沃さにかけている。
- 3.草原が生育する程度に乾燥した気候の温帯や乾燥帯では、テラロッサやテラローシャと呼ばれる成帯土壌が分布するが、栄養分で太陽光線で分解されるため肥沃さに欠ける土壌になりがちであり、やせた土壌でも育つトマトやナスの栽培に適している。
- 4.温暖湿潤気候や西海岸性気候の地域では、チェルノーゼムと呼ばれる肥沃な黒色土が発達しており、綿花の栽培が行われている。また、地中海性気候の土壌は、プレーリー土と呼ばれ、小麦やトウモロコシの栽培に適している。
- 5.北半球の高緯度地域においては、冷帯・寒帯に特徴的な、栗色や灰白色の土壌が分布している。タイガやツンドラ土と呼ばれるこれらの薄い色の土壌は、塩基性(アルカリ性)が強いた腐植層が厚くなり、作物の生育には適しないとされている。